

あさつゆ

編集・発行
松江市農業委員会

〒690-8540
松江市末次町86番地
☎55-5528

平成25年12月発行

第26号



農地を預かる若き担い手（農業生産法人 ライスフィールド有限会社） 7ページに紹介記事

あぜみち



あつという間に1年が過ぎ、もう師走となりました。

振り返ると、今年の稲作については、「春の少雨」、「夏の猛暑」、「秋の長雨」と天候に苦慮した年でした。

農業を取り巻く情勢は、年々厳しくなっていると感じています。特に農家の高齢化による担い手不足については、より一層深刻な問題となっています。

農林水産省発表の「農林業センサス」によると、平成7年に平均64歳であった島根県の基幹的農業従事者が、15年後の平成22年には平均70歳となっており、世代交代が行われず高齢化が進んでいることは明らかです。

我々が暮らす松江市においても、例に漏れず同じ問題を抱えています。そこで、農業委員会では、11月6日に「未来を見据えた担い手の育成」をテーマに松江市長に対して建議書を提出しました。今後、現在の地域農業の担い手を育成することに加えて、継続して確保していくことが新たな課題と考えます。30〜40年後という未来を見据え、地域、行政、関係機関が一体となって、将来への仕組み作りが必要だと感じます。

(雅)

提出をお忘れなく！ 選挙人名簿登載申請書

「農業委員会委員選挙人名簿登載申請書」の提出時期が近づいてきました。

この申請は、農業委員会委員の選挙人および被選挙人としての資格があることを確認するための大切な手続きです。申請書の提出がないと、選挙人名簿に登載されず、農業委員会委員選挙で投票することができません。

来年7月には農業委員一般選挙が予定されています。資格のある方はもちろん申請書を提出してください。

<資格のある人>

平成26年1月1日現在で松江市内に住所があり、満20歳以上（平成6年4月1日までに生まれた方）で、次の①～③のいずれかに該当する方

- ① 10a以上の農地を耕作されている方
- ② ①と同居する親族またはその配偶者で、年間おおむね60日以上耕作に従事している方
- ③ 10a以上の農地を耕作する農業生産法人の組合員、社員または株主で、年間おおむね60日以上耕作に従事している方

<申請書>

申請書は、10a以上の農地を耕作していると思われる世帯に、11月末に郵送しています。申請書が届いていない場合は、農業委員会事務局（TEL55-5223）または最寄りの支所へご連絡ください。

<締め切り>

平成26年1月10日（金）必着

人・農地プラン

策定期限
平成26年3月まで

★島根県の就農平均年齢は、70歳！

人・農地プランを作成すると ⇒ 国から支援が受けられる

高齢などの理由により離農
（リタイア）したい

※機械がそろそろ壊れそう（新たな設備投資には自信がない）

ほぼ、全ての農地（田・畑）を担い手へ貸し出す

- ①農地集積協力金（1戸当たり）
30万円（貸出面積0.5ha以下）
50万円（0.5ha超～2.0ha以下）
70万円（2.0ha超）

※1回のみで交付で、10年以上の利用権設定（10年以上の白紙委任、6年以上の利用権設定）が必要です。

新規就農者を支援
（集落の将来の担い手へ）

- ②青年就農給付金
（年額150万円 準備型（研修）最長2年、開始型最長5年給付）
※就農時45歳未満、前年度所得250万円未満

※農業経営基盤強化資金（スーパーL資金）の利子補給制度（実質5年間 無利息） ※対象：認定農業者等

将来の担い手はどうするのか。今後、個人経営は不安。集落営農を考えてみたい。

★職員が地域の課題、今後の営農について相談に伺います！★

●問い合わせ● 松江市農政課（担当：土江、玉木、田原） TEL：55-5225 FAX：55-5246

松江市賃借料情報



平成24年1月から12月までに締結（公告）された賃貸借における賃借料水準（10aあたり）は、以下のとおりとなっております。この金額はあくまで参考事例として表示していますので、これを目安に圃場条件等**各種条件を考慮し、賃貸借当事者間**で決めてください。

平成25年10月7日

松江市農業委員会

【田（水稲、大豆等転作も含む）の部】

締結(公告)された地域名	平均額	最高額	最低額	データ数	使用貸借によるもの (借賃無料のもの)
旧松江市全域	7,100円	11,800円	2,300円	722	167
旧鹿島町全域	11,400円	19,000円	6,500円	44	15
旧島根町全域	6,000円	6,000円	6,000円	15	11
旧美保関町全域				データなし	データなし
旧八雲村全域	4,700円	8,600円	2,000円	75	54
旧玉湯町全域	6,400円	8,700円	2,100円	32	43
旧穴道町全域	7,500円	11,400円	2,900円	38	68
旧八束町全域				データなし	データなし
旧東出雲町全域	6,700円	10,200円	2,300円	39	3
(参考)松江市平均	7,100円				

【畑（普通畑）の部、樹園地含む】

締結(公告)された地域名	平均額	最高額	最低額	データ数	使用貸借によるもの (借賃無料のもの)
旧八束町を除く 松江市全域	6,100円	10,200円	3,000円	21	58

【畑（花卉・薬用人参）の部】

締結(公告)された地域名	平均額	最高額	最低額	データ数	使用貸借によるもの (借賃無料のもの)
旧八束町全域	10,100円	10,400円	10,000円	9	7

- * 1 データ数は、集計に用いた筆数です。
- * 2 「（参考）松江市平均」の平均額は、データ数による加重平均の値です。
- * 3 賃借料を物納としている場合は含まれません。
- * 4 金額は四捨五入し、100円単位としています。
- * 5 利用状況が特殊なものは除外しています。



集落営農の

新しい担い手

黒田町 江角 洋二 さん

古志町にある、「農事組合法人 のぞみの里 古志ファーム（多久和 昇代表理事組合長 構成員28戸）」では、主食用水稲17^{ヘクタール}、WCS用稲（飼料用）7・8^{ヘクタール}、そば（2毛作）7・5^{ヘクタール}、津田かぶ50^{アル}とハウス4棟でミニトマト栽培を行っています。組合員の高齢化や後継者不足に悩んでいたこの組合に、今年4月から新しい組合員が加わりました。

集落での農業生産作業に活躍する、「江角 洋二」さんを紹介します。

農業を始めたきっかけ

実家は本庄町で兼業農家を営んでいたのですが、子どもの頃から水稻



などの作業を手伝っており、農業に興味がありました。

昨年3月に、新聞で島根県の集落営農等派遣研修事業を知り、早速問い合わせに応じて応募しました。

その年の4月から1年間は、この事業の県内第1号として、現在勤務している集落営農組合へ派遣となり、水稻やトマト栽培などの農作業を体験しました。

現在の取り組みと目標

派遣期間終了となった今年4月からは、組合員となり引き続き働いています。

現在は、農業機械のオペレータや、トマト栽培の責任者としてハウスを任されています。

集落営農組合で働くメリット

は、農業生産の基盤があり、さまざまな知識や技術を教えてもらえることです。作業の合間には、休暇も取ってリフレッシュしています。

将来は、集落営農組合と兼業で、自分の田で水稻をやりたいです。

また、地元から若い後継者ができて欲しいです。そして、相棒となって集落営農に取り組んでいきたいと思っています。



多久和代表理事組合長から

地元後継者がいない中、外部からのやる気のある人材を求めて江角さんを受け入れました。

組合員の中で、一番若い江角さんは、積極的で、今では主戦力となって作業に取り組んでいます。組合員にも活気ができました。

現在は、水稻栽培を中心とした農業経営を行っています。年間の営農計画を行いながら、集落を維持し、若い後継者を育てていきたいと思っています。

集落営農組織においても、後継者不在の声をよく耳にするなか、「のぞみの里 古志ファーム」に江角さんを組合員として迎え、中古志集落も活気づいたと喜んでいました。

今後の集落営農の歩むべき方向性を、地域全体で協議する時がきたのではないでしようか。

江角さん、今後ともよろしくお願いします。



玉湯町湯町の南地区で、5年以上前から耕作地として荒れていた約1万5千平方メートルの棚田を再生しようと、地区の土地所有者6人が、今年8月に「玉湯町『おもじろ』放牧



組合」を立ち上げた。

9月には、総延長600メートルを電気牧柵で囲み、県中山間地域研究センターの耕作放棄地活用対策によるレンタル用繁殖雌和牛2頭を借り受け、放牧をはじめた。

牛は1頭で1日10^キ以上の草を食べ、2カ月で2頭の牛が約1万平方メートルの草を食べ尽くすといい、カヤやクズなどの雑草が生い茂る農地を、牛の食欲を利用して除草することになっている。冬場は牛を引き上げ、来春からは面積を拡大し再び放牧する予定。

松江市農業委員会の地区協力員でもある同組合の小室千代志組合長は、「今回を契機に、こうした事業を

徐々に仲間とともに拡大して荒廃農地解消をめざすとともに、自前での和牛飼育やイノシシ被害の防止、景観保全などにも繋げて行きたい。また、将来は、ヤギ・ヒツジも併せて放牧したい。」と熱く抱負を語っている。

玉湯町は、中山間地以外の平坦地に於

いても耕作放棄地が目立ち始め、観光地の入口でもあり、景観上でも頭を痛めている。今度の牛の放牧による除草のアイデアは一つのヒントである。今後、市・県からの、更なる支援も得ながら、耕作放棄地対策と絡め、農業（畜産）経営として成り立つ事業への発展を期待するところである。

全国農業新聞

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS

営農とくらしに役立つ農業総合

専門紙を購読してみませんか。

◆毎週金曜日発行

◆購読料 月600円

◆購読のお申し込みは

農業委員会事務局

(TEL551-5222) まで

知って得する！

農業者年金

- ① 国民年金の第1号被保険者で
- ② 年間60日以上農業に従事する
- ③ 60歳未満の方なら

どなたでも
加入できます

少子高齢時代に強い年金です

農業者年金は、自ら積み立てた保険料とその運用実績により将来受け取る年金額が決まる「**積立方式（確定拠出式）**」です。これは年金加入者・受給者の数の変化に影響されない安定した制度で、少子高齢時代でも安心できる制度です。国民年金と組み合わせることで、より安定した老後の備えとなります。

また、保険料は月2万円から6万7千円の間で自由に設定でき、いつでも見直せます。

終身年金で80歳までの保証付きです

年金は生涯支給されます。もし加入者・受給者が80歳前に亡くなった場合は、死亡した翌月から80歳までに受け取れるはずだった年金額が死亡一時金として遺族に支給されます。

公的年金ならではの節税効果があります

支払った保険料は全額が社会保険料控除の対象となるので、税率に応じて所得税・住民税が減額されます。これにより、実質的な支払額が減少すると考えることができます。

また、将来受け取る農業者年金は公的年金等控除の対象となり、65歳以上の方であれば、公的年金等の合計額が120万円までは全額非課税となります。

保険料支払いによる年間節税効果の試算（所得税+住民税）

税 率	保 険 料 の 額		
	月額2万円 (年額24万円)	月額5万円 (年額60万円)	月額6.7万円 (年額80.4万円)
15%の場合	36,000円	90,000円	120,600円
20%の場合	48,000円	120,000円	160,800円
30%の場合	72,000円	180,000円	241,200円

民間の個人年金保険に加入した場合の年間節税効果は、保険料年額が8万円を超えると一律で、税率15%で4,800円、20%で6,800円、30%で10,800円です。公的年金である農業者年金の節税効果の大きさがわかります。

詳しくは、松江市農業委員会事務局（☎55-5223）もしくはお近くのJ Aまでお気軽にお問い合わせください。

松江市農山漁村地域活性化基本条例が平成25年1月から施行されました。

【活性化条例とは】

地域の振興と農林水産業の発展についての基本理念を定め、市・事業者（農業者・関係機関など）・市民が役割を明らかにし、活性化に関する施策等を定め、事業者の**創意工夫**に富んだ取組への支援を行い、活性化を図るもの。

国・県の補助事業ではカバーできない、地域独自の支援（補助）を行います。

【どんな支援ができる？（支援の一例）】

●空き家を改修し、若者を定住させたい。	改修費の1/2（補助上限50万円）
●中高年（45～65歳）の新規就農者を確保し、支援したい。	50万円/年×2年間 給付
●オペレーター育成のため、大型特殊免許（農耕車）の免許をとらせたい。	1/3（1件3万円以内）
●集落営農を組織化したいが、結成時に機械購入費を助成してもらいたい。	1/2（補助上限250万円）
●地域の見守り活動、防災活動などの活動を支援してもらいたい。	8万円/月×3年間（※集落で雇用する場合）
●地元で採れた野菜や、加工品を販売し、交流したい。	1/2（補助上限20万円）

補助要件がありますので、詳しくは、農政課農業振興係（Tel: 55-5224）まで、お問い合わせください。

第16回

農業担い手サミット

in いしかわ

『伝えよう！担い手の心
広げよう！農の絆』

平成25年10月30日～31日、石川県金沢市を主会場に開催され、松江市からは松江市認定農業者協議会の8名が参加しました。

1日目は皇太子さまのご臨席を仰ぎ、全国から農業関係者ら約2100人が参加し全体会が開催されました。担い手の活力あるメッセージはこれからの農業に意欲と希望を抱くものでした。また、石川県の家族経営農業者によるパネル討論は家族の暖かさの中に地域とのつながり、農業の継承への方向性を導くものでした。

2日目、34コースに分かれての現地研修があり、金沢里山農業コースでは、耕作放棄地を地域で再生しサツマイモなど栽培販売に取り組む野菜組合や、創業420年の酒蔵、湯涌かぶら復活栽培を温泉旅館中心に取り組むかぶら協

議会など視察しました。松江とよく似た作物や土壌や環境で、見習うことも多く取り入れていきたいと感じるとともに、参加者が助言する場面もあり、有意義な研修でした。南加賀地域は、六次産業化に取り組む法人等を視察しました。2日間を通して能登加賀の自然や伝統の中で、全国の農業者と意見交換して、大きなパワーをもらうことができました。日本の豊かな自然、環境、伝統を生かした農業の在り方を再認識するとともに魅力ある農業の実現に向けて取り組んでいきたいと感じました。



視察の様子

『だんだん営農塾』初収穫！

くにびきキャベツの産地づくり対策・担い手育成対策として、実際にキャベツを作りながら栽培技術を学ぶ「だんだん営農塾」（だんだん営農塾実行委員会主催）が今年度から中海揖屋干拓地で始まり、4名の塾生が受講しています。



10月15日には待望の初収穫を迎え、収穫したキャベツは、小ぶりながらも10箱ほどになり、塾生は収穫の喜びを実感しました。塾生は、3月まで収穫、調整作業等の圃場実習と経営経理の基礎知識等

の座学研修を受講します。

だんだん営農塾では平成26年度も引き続き塾生を募集しますの
で、詳細については、J Aくに
びき中海干拓事業所（TEL 52・
6610）までお問い合わせくだ
さい。

表紙紹介

農業生産法人

ライスフィールド有限公司

取締役 吉岡 雅裕

湖北平野を中心に、水稻と農
作業受託により約100名の農
地を預かるわが社の若き担い手
たちです。

湖北地区においても、高齢化
や担い手不足が問題となってい
るなかで、20～30代を中心とし
た担い手たちは、地域の皆さま
に助けられながら農業に従事し
ています。

将来の担い手としての成長を
見守るなかで、次世代の担い手
をつくるための環境づくりを、
地域全体で考える時期が来てい
るのではないかと思います。

「地産地消で地域の未来を築こう！ 松江の農林水産業」

松江市農林水産祭〈10月27日開催〉

台風の影響により心配されていた天候も回復し、秋空のもと、松江総合運動公園中央広場で「松江市農林水産祭」が開催されました。地元の旬な農産物や海産物、特産品などの販売のほか、苗木の無料配布や米のすくい取りなどの配布イベントやステージイベントなど盛りだくさんの催しがありました。多数の皆さんが来場され、会場は終始にぎわっていました。

今年は、松江商業高校の生徒が玉湯町で生産された生姜を使った加工商品のパネル展示をしたり、松江農林高校の生徒による八束町のはまぼうふうを使った加工品の試作販売など、次世代を担う若い力も大活躍しました。

また、中海・宍道湖・大山圏域の出雲市、境港市、米子市から特産品の出店もあり、年々出店数も増えて、今年は66団体の出店をいただきました。

生産に携わる皆さんが、直接消費者に新鮮な野菜や水産物を販売することを通じて、生産者と消費者の交流が一層深まったのではないのでしょうか。

農業委員会は、しめ縄づくり体験コーナーを出店しました。



お客様がひっきりなしの大盛況でした

平成25年度情報委員

委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長
吉岡	松浦	大西	足立	村上	三島
雅裕	久年	求	裕子	幸可	進

(求)

今年の米の作柄は、当松江市管内では、量はともかく品質はあまり良くなかったようです。猛暑が影響したのでしょうか。稲作農家は良い米をたくさん作ることをめざし、日々汗をかいていますが、原因が自然現象によるものなら諦めもつき、また来年頑張ろうという気持ちにもなります。

しかしながら、日本農業にとって大きな問題となっているTPP（環太平洋経済連携協定）は、交渉の結果次第では、農業に懸ける農家や担い手の夢や希望を奪いかねません。

一方で、農地の荒廃、遊休化が進むなか、中山間地域での農業は、一刻と伸びる草木との闘いでもあります。今年9月に、松江市玉湯町のおもじろ放牧組合で実施された牛の放牧による除草。この試みがぜひ成功して欲しいものです。

振り返れば、経済の高度成長期から今まで、農業は特に中山間地域においては、衰退の一途の時代であったように思います。TPPによってこれ以上後退しないことを願っています。

編集後記

